

卒園児現況調査の結果

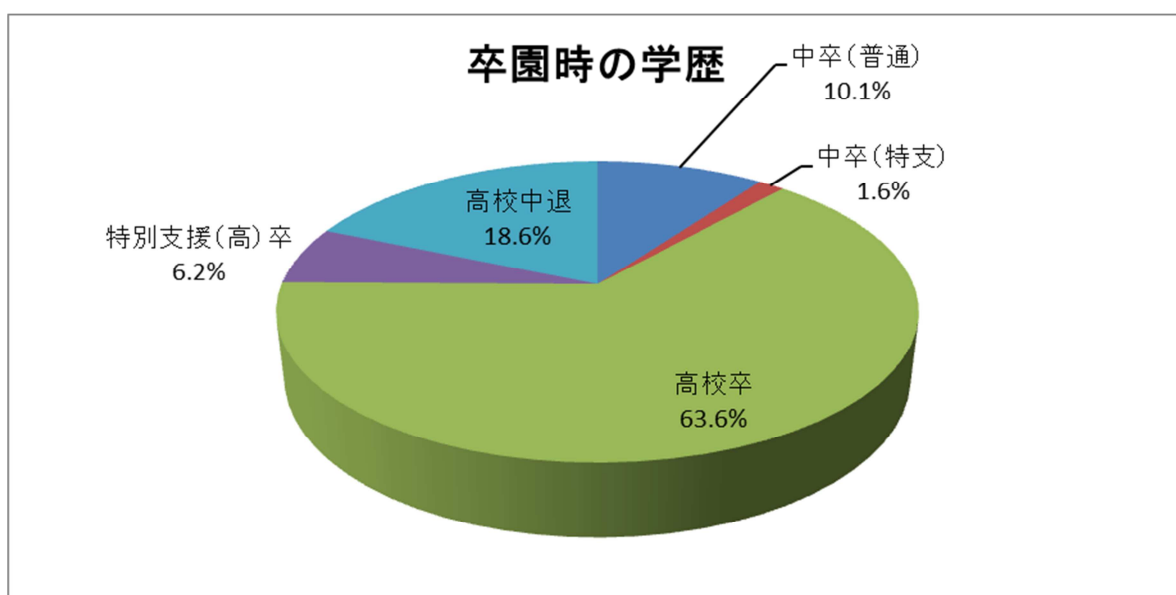
協同組合千葉県若人自立支援機構

1 調査対象者の状況

平成 19 年 4 月 1 日以降 24 年 6 月 1 日までに機構加盟 6 施設を卒園した者を対象に、各施設に対して調査を行った。調査該当者は、男子 75 人 (58.1%)、女子 54 人 (41.9%) の計 129 人であった。

(1) 学歴

卒園者の学歴は、高校卒 82 人 (63.6%)、高校中退 24 人 (18.6%)、中学卒 15 人 (11.7%)、特別支援学校高等部卒が 8 人 (6.2%) となっている。

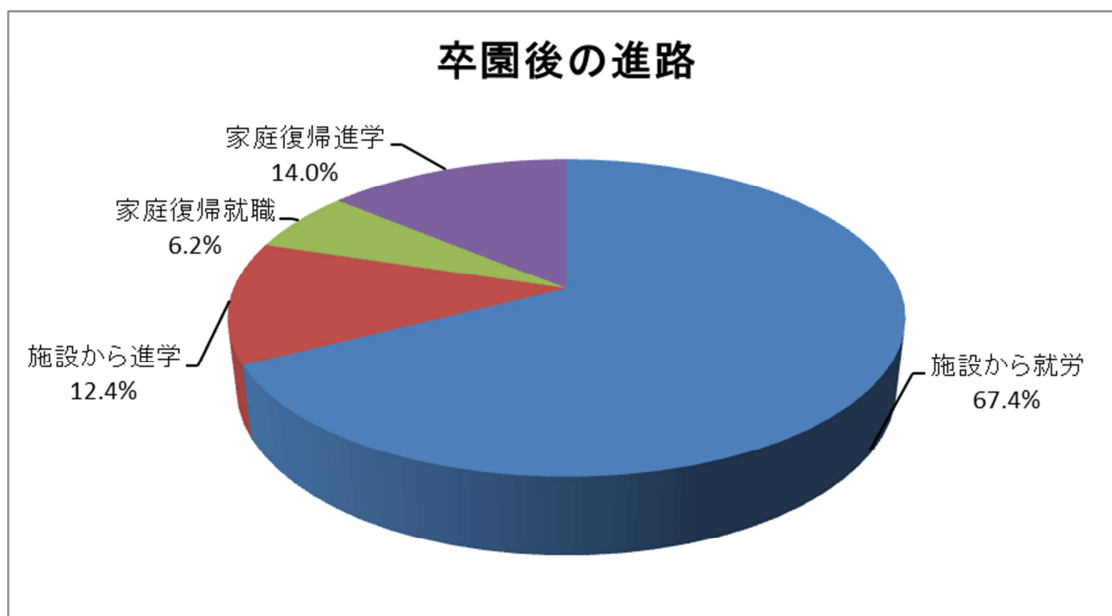


平成 13 年 12 月に千葉県児童福祉施設協議会が千葉県内の児童養護施設等に対して行った「施設に入所する子どもの進路に関する調査」(以下、「平成 13 年千児協調査」という。) ¹によれば、各年度卒園者に占める高校中退者の割合は、平成 9 年度 34.2%、10 年度 34.0%、11 年度 36.2%であり、これに比べると半減していることになる。

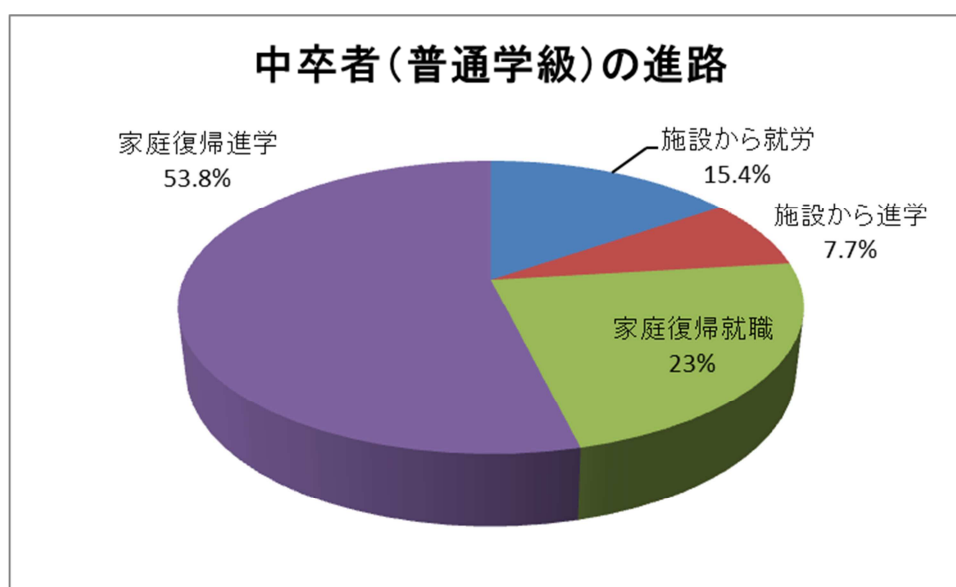
¹ 乳児院を除く、児童養護施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設 21 のうち 20 施設を対象に、過去 4 年間に中学・高校を卒業した者を対象として実施。

(2) 卒園後の進路

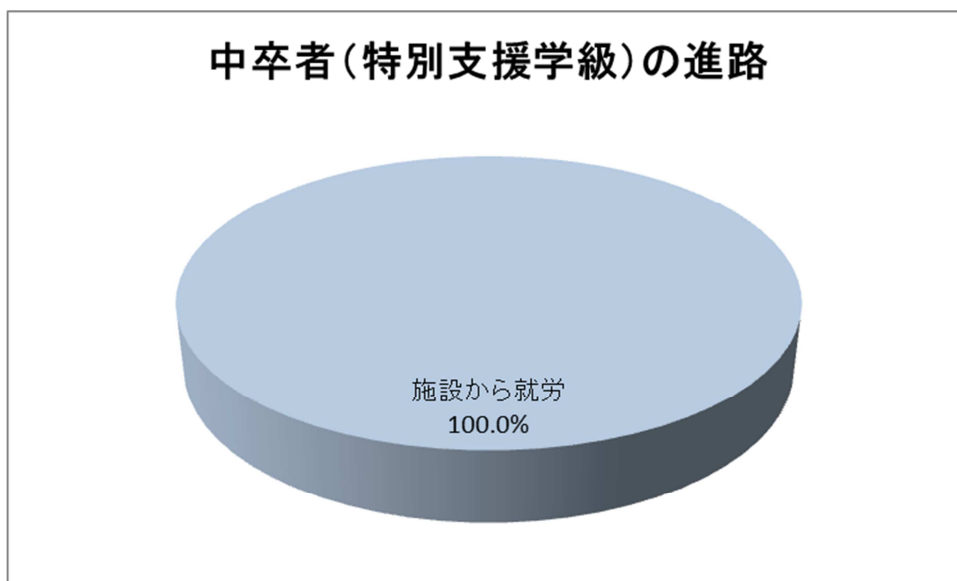
卒園後は、施設から就労した者が一番多く 87 人 (67.4%)、次いで家庭復帰し進学した者が 18 人 (14.0%)、施設から進学した者が 16 人 (12.4%) で、家庭復帰後就労した者は 8 人 (6.2%) である。



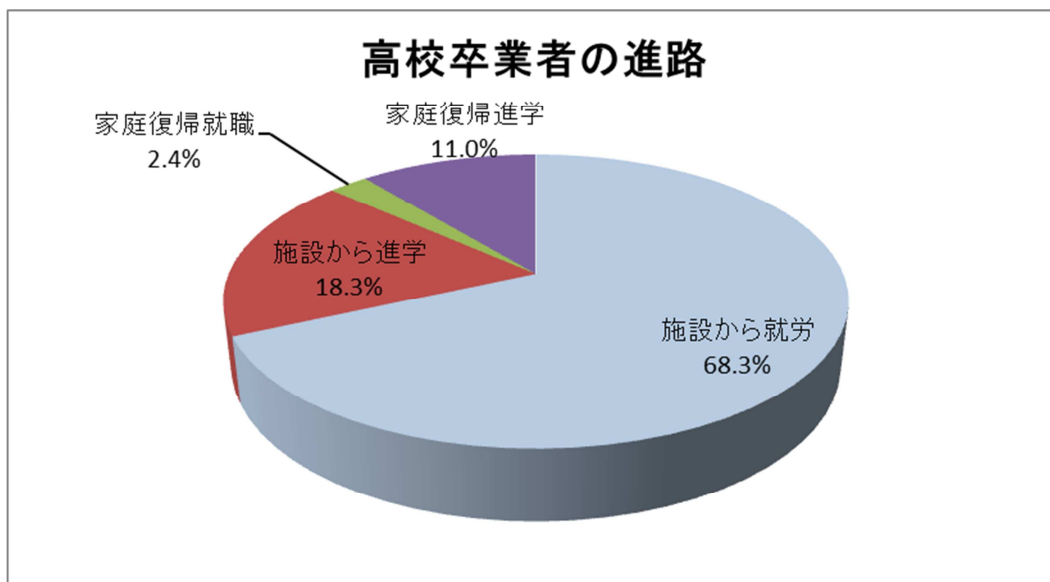
学歴別にみると、中卒（普通学校）者は 53.8%が、家庭復帰後進学しており、家庭復帰後就労が 3 人 (23.1%) となっている。高校進学や就職を契機に家庭引き取りしたものと考えられる。



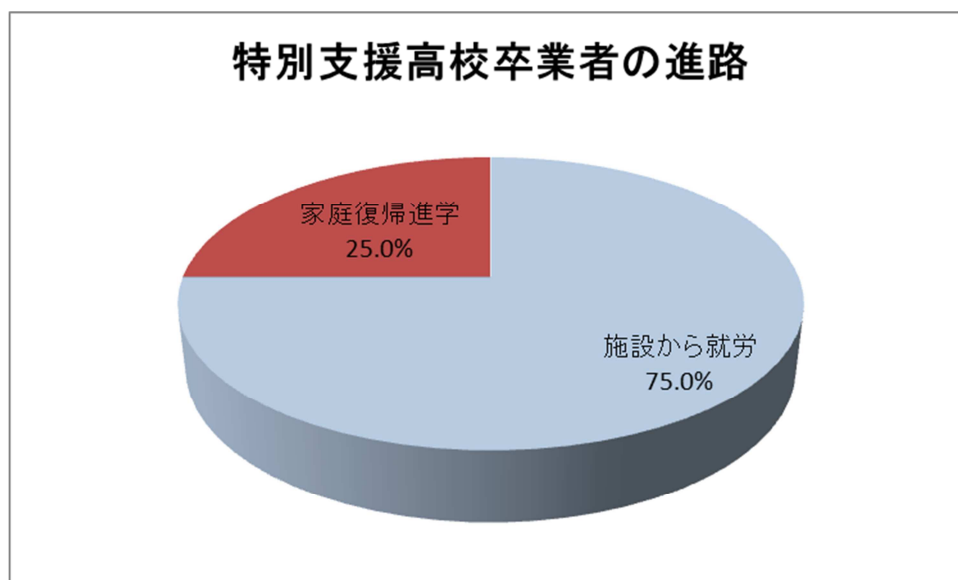
また、特別支援学級中卒者 2 人は、全て施設から就労している。



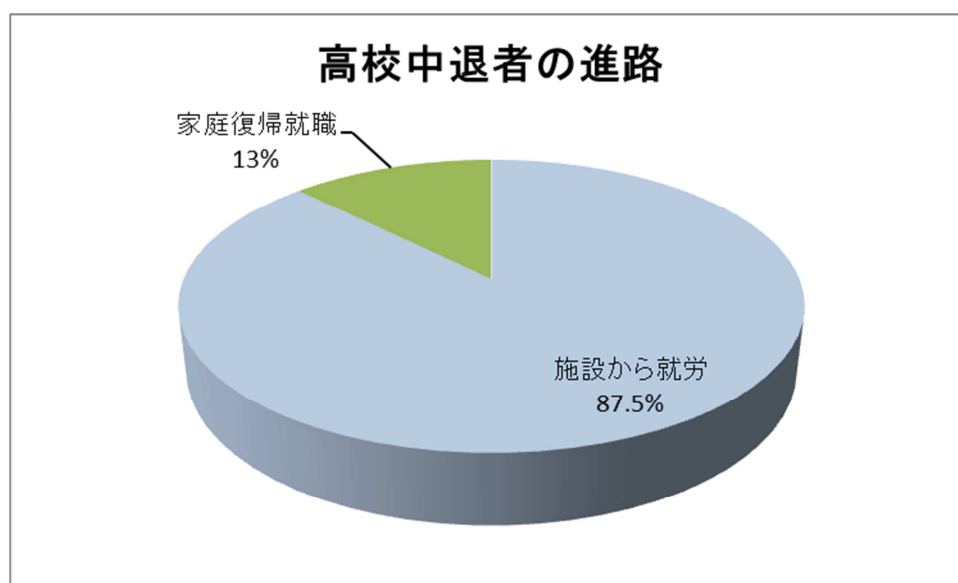
高校卒者をみると、施設から就職が 56 人 (68.3%)、施設から進学が 15 人 (18.3%)、家庭復帰後進学が 9 人 (11.0%) であり、家庭復帰後就職はわずか 2 人 (2.4%) である。



特別支援学校高等部卒業者は8人であり、このうち75.0%が施設から就労、残り25.0%は家庭復帰後進学となっている。



卒園者の2割近くを占める高校中退者24人は、当然進学する者は無く、施設から就職した者が21人(87.4%)、家庭復帰して就職した者が3人(12.5%)となっていた。



(3) 学歴別在園期間

在園期間は、10年以上は29人(33.3%)、5～10年が30人(34.5%)、5年未満が28人(32.2%)とほぼ均等に分布している。

高校卒者と高校中退者では在園期間に差があった。高校卒者が、5年未満が23.2%で5年以上が8割近いのに対し、中退者の場合は5年未満が57.1%で在園期間が卒業者に比べ短いことが分かる。

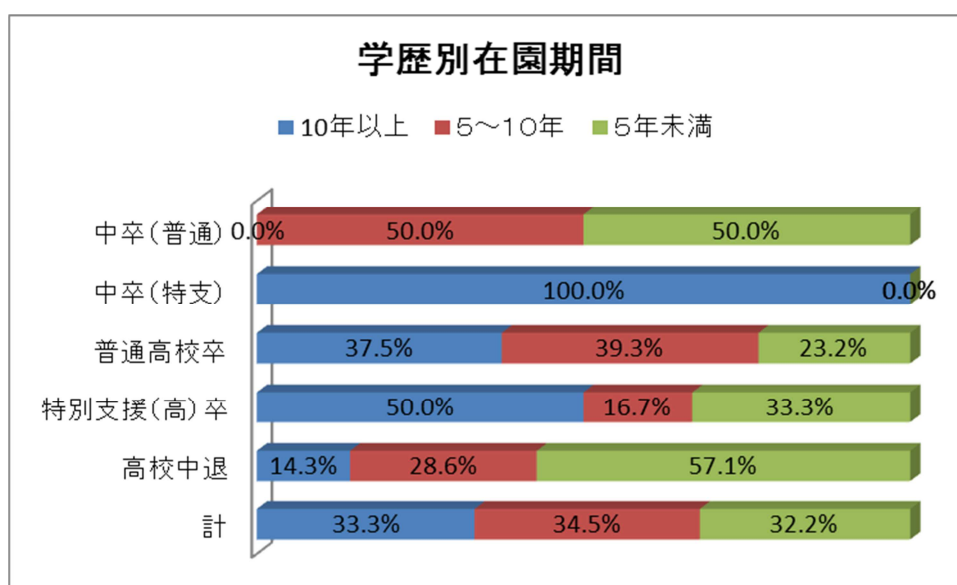


表1-1 学歴別卒園後の状況

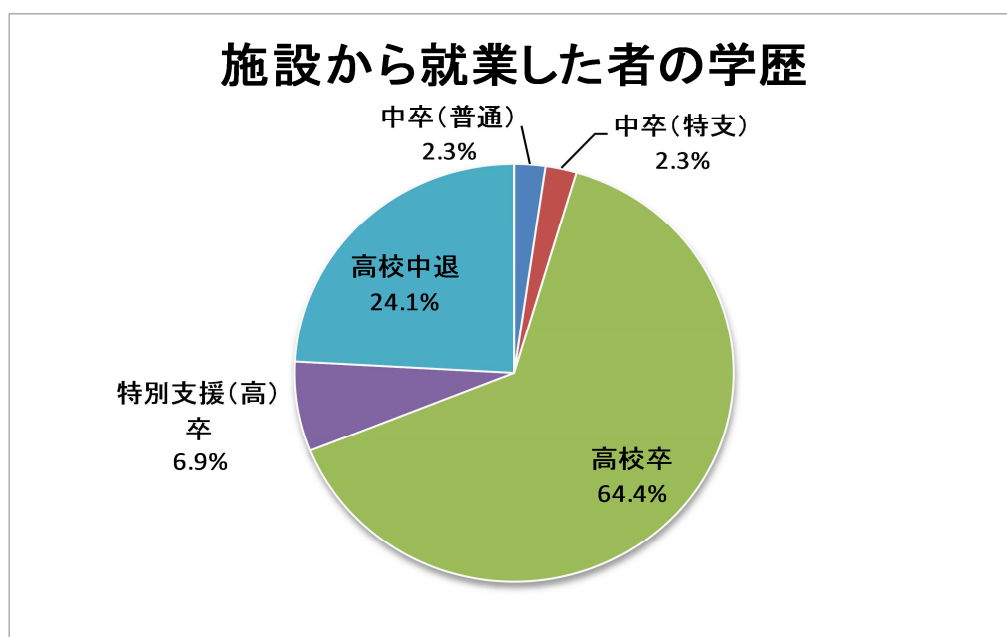
	計	性別			卒園後の状況				
		男	女	計	1施設から就労	2施設から進学	3家庭復帰就職	4家庭復帰進学	計
1中卒(普通)	13	8	5	13	2	1	3	7	13
2中卒(特支)	2	1	1	2	2	0	0	0	2
3高校卒	82	47	35	82	56	15	2	9	82
5特別支援(高)卒	8	7	1	8	6	0	0	2	8
6高校中退	24	12	12	24	21	0	3	0	24
計	129	75	54	129	87	16	8	18	129

	計	性別			卒園後の状況				
		男	女	計	1施設から就労	2施設から進学	3家庭復帰就職	4家庭復帰進学	計
1中卒(普通)	100.0%	61.5%	38.5%	100.0%	15.4%	7.7%	23.1%	53.8%	100.0%
2中卒(特支)	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3高校卒	100.0%	57.3%	42.7%	100.0%	68.3%	18.3%	2.4%	11.0%	100.0%
5特別支援(高)卒	100.0%	87.5%	12.5%	100.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
6高校中退	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	100.0%
計	100.0%	58.1%	41.9%	100.0%	67.4%	12.4%	6.2%	14.0%	100.0%

2 施設から就業した者の状況

(1) 学歴

施設から就職した者の学歴は、高校卒 56 人 (64.4%)、高校中退 21 人 (24.1%)、特別支援学校高等部卒 6 人 (6.9%)、中卒 4 人 (4.6%)の順に多い。



(2) 卒園時及び現在の居所

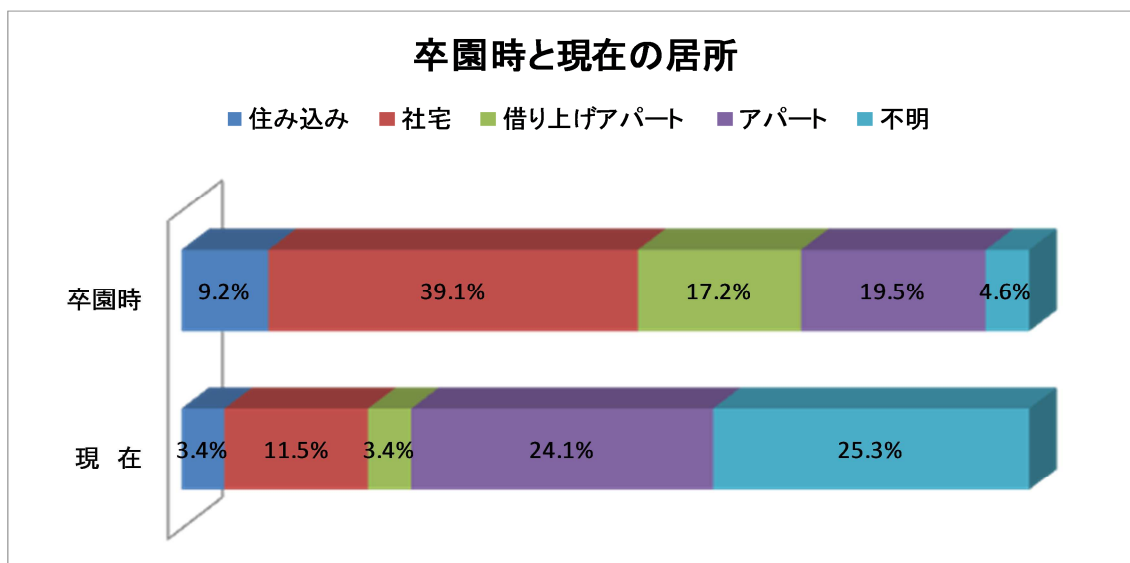
施設から就職した者全体の居所をみると、「社宅」34 人(39.1%)、「アパート」17 人(19.5%)、「借り上げアパート」15 人(17.2%)、「住み込み」8 人(9.2%)で、「その他」が 9 人(10.3%)、「不明」が 4 人(4.6%)の順になっている。

「住み込み就職」、「社宅」、「借り上げアパート」のように就労先から住居が保障されている所へ居所を構える者が全体で 65.5%と多い。

しかし、平成 13 年千児協調査ではアパートは 11%に過ぎなかったが、今回調査では 19.5%と倍増しており、自立志向が高まっている。

現在の居所は、「社宅」は 39.1%から 11.5%へ、「借り上げアパート」は 17.2%から 3.4%へ、「住み込み」9.2%から 3.4%とそれぞれ 1/3 以下となっており、代わって「アパート」が 19.5%から 24.1%へ増加している。転職に伴って自力で住まいを確保する必要が生じており、卒園当初からの経済的ギャップが大きく、かなりな負担となっていることが予想される。

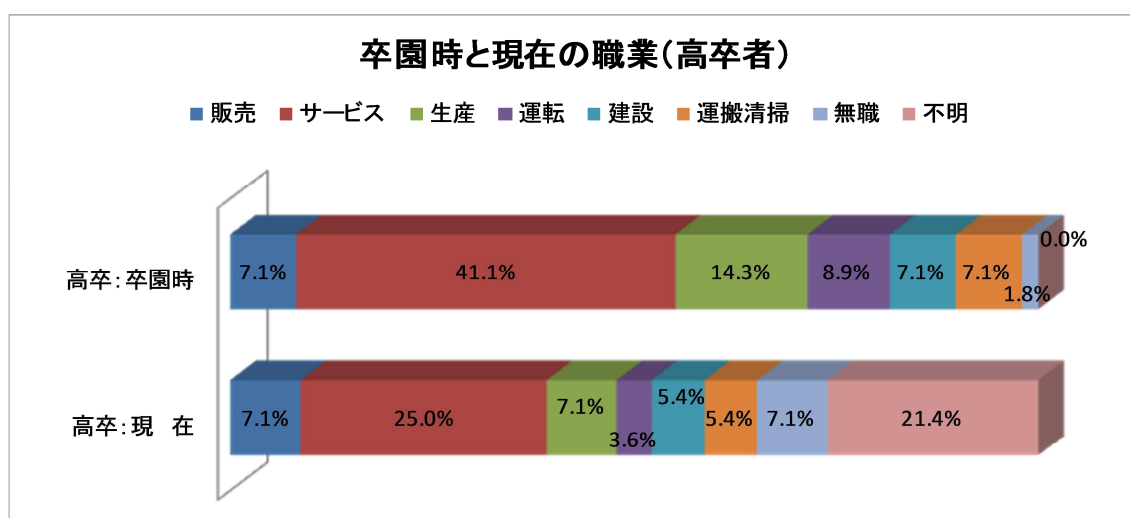
また、不明が 4.6%から 25.3%へと増加しており、卒園後数年経過すると居所が不明となっている状況が判明する。



(3) 卒園時及び現在の職業

卒園時点での職業は高卒者の場合、サービスの職業が 23 人（41.1%）と大多数を占めている。他は、生産工程従事者 8 人、運転 5 人、販売、建設、運搬清掃が各 4 人となっている。事務的職業は 1 人だけである。

現時点では、サービスの職業が 23 人（41.1%）から 14 人（25.0%）へ半減、生産が 8 人から 4 人へ、運転 5 から 2 人、販売は変わらず、建設が 4 人から 3 人、運搬製造が 4 人から 3 人と 1 人減となっており、不明が 0 から 17 人(30.4%)と急増している。現在不明となっている者の当初の職業は、17 人のうち、6 人がサービスの職業となっている。



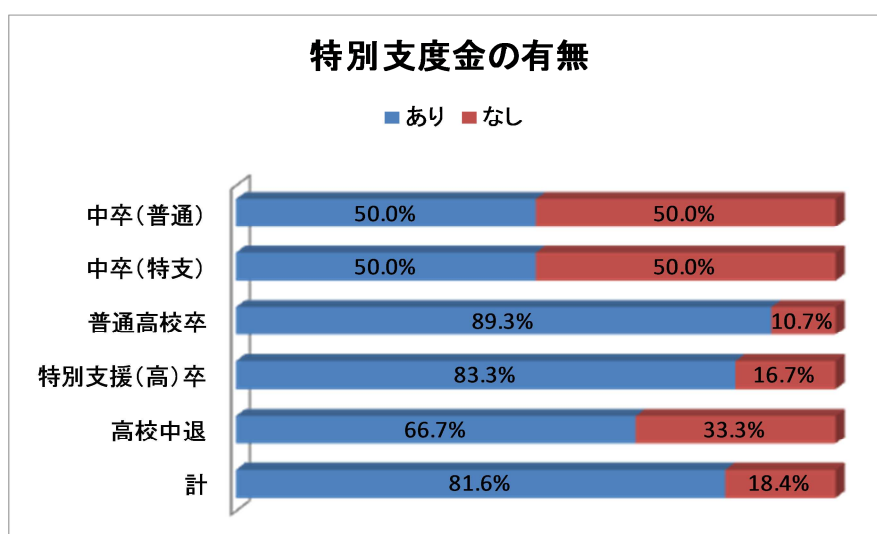
(4) 卒園時の貯金

卒園時 30 万円以上の貯金をもっている者は、17.2%しかおらず、卒園後、転職などに伴い、住まいを確保する上でかなりの危うさを感じる。学歴別にみると、30 万円以上の貯金者は、高校卒が最も高く 23.2%であるが、高校中退者は 9.5%と 1 割に満たない。また、中卒及び特別支援高校卒では 30 万円以上の貯金を持っている者は皆無である。



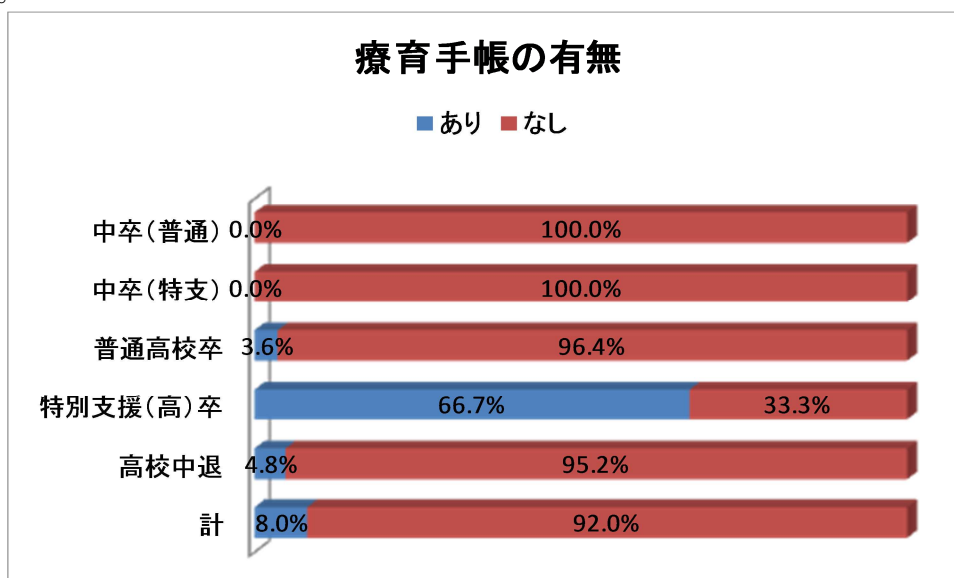
(5) 就職特別仕度金の有無

全体では、68 人(81.6%)の者が特別支度金を受けており、高卒者では 89.3%が受けている。高校中退者は 66.7%と高校卒者の 89.3%に比べ 20 ポイント以上少なかったことは、特に高校中退者に卒園後の問題が生じていることを伺わせる。



(6) 療育手帳の有無

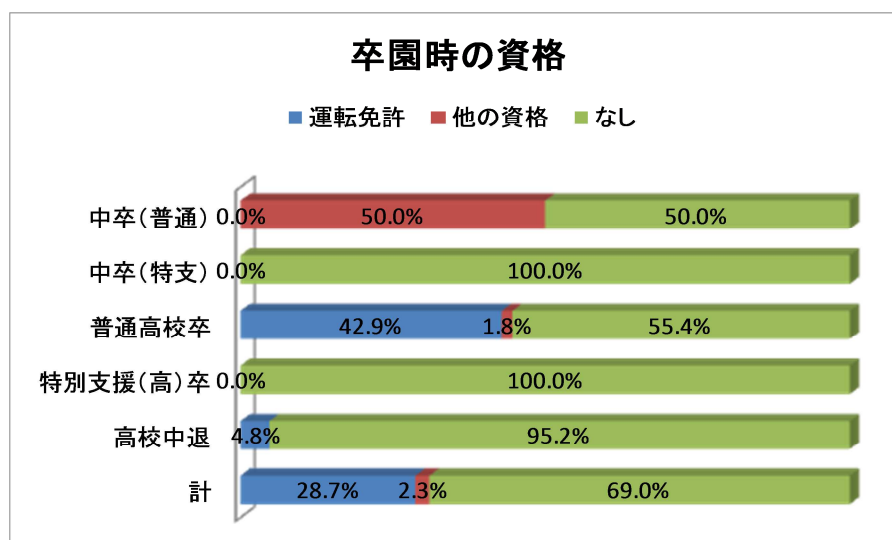
全体で療育手帳を所持している者は7人(8.0%)で、普通高校卒者で2人、高校中退者で1人、特別支援学校高等部卒者で4人であった。中学特別支援学級卒者の2人と特別支援高等部卒者の2人は手帳を取得していなかった。



(7) 卒園時の資格の取得状況

全体では、運転免許を取得している者が25人(28.7%)、他の資格取得が2名で、全体の約7割は何も資格を取得していなかった。

しかし、高卒者では42.9%の者が運転免許を取得しているのに対して、高校中退者ではわずか4.8%の者しか取得しておらず、95.2%の者は何の資格も取得していなかった。



(8) 雇用形態

全体では、正規社員 68 人(78.2%)が一番多く、次いでパート・アルバイトが 9 人(10.3%)、その他 7 人(8.0%)、福祉的就労 3 人(3.4%)となっている。

高校卒では、正規社員が 91.1%と非常に高く出ている。

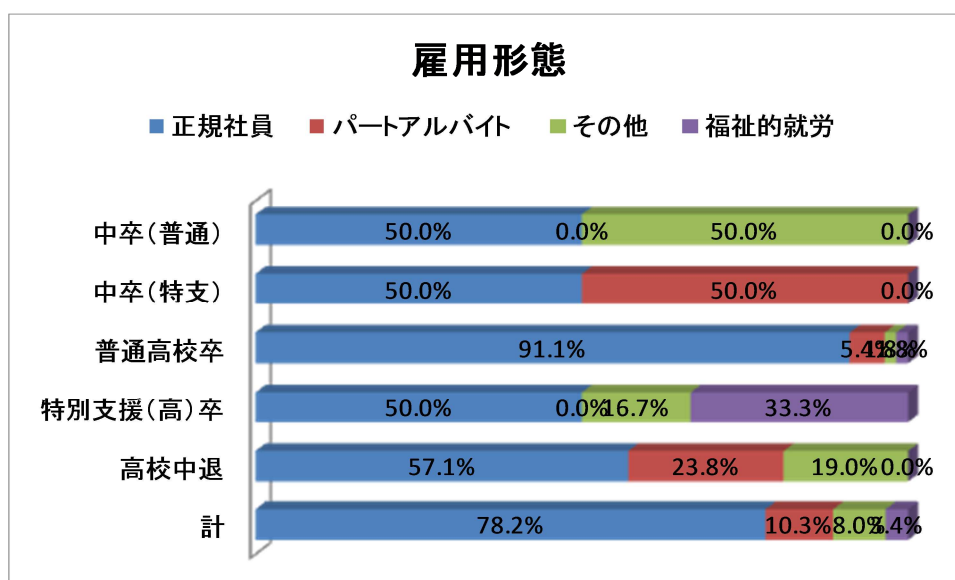
しかし、平成 22 年労働力調査（総務省統計局）によると、15～24 歳の全雇用者のうち、正規の職員・従業員は男性 75.3%、女性 64.1%、パート・アルバイトは男性 17.6%、女性 25.6%である。

平成 22 年 12 月～翌 1 月に東京都が実施した「東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書」（東京都福祉保健局、平成 23 年 8 月）²（以下、平成 23 年東京都調査という。）によれば、施設出身者の現在の雇用形態は正規社員が男性 56.5%、女性 33.9%となっており、パート・アルバイトは男性で 28.5%、女性で 45.7%と、正規雇用の割合は更に低くなっている。

就業当初は正規社員であっても転職により非正規労働へ移行したのか、今回調査の正規社員の定義について問題があるのか、検討を要する。

一方、高校中退者になると、正規社員は 57.1%と大幅に低くなる。

また、中学特別支援学級及び特別支援学校高等部の卒園者の半分は正規社員での雇用だった。福祉的就労は特別支援学校高等部の卒園者 2 名の他、一般の高校卒者 1 名もいた。

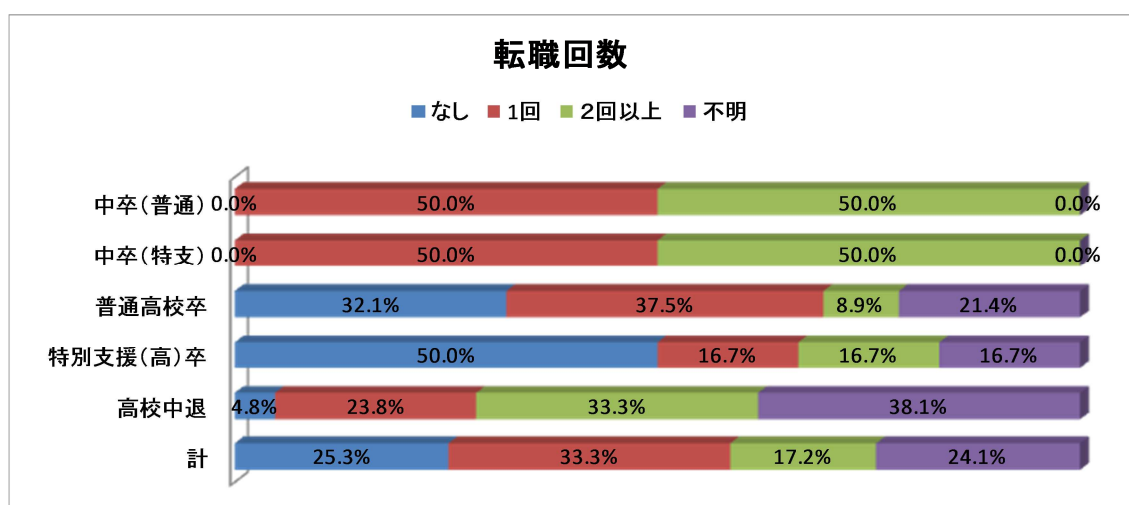


² 東京都所管の児童養護施設、自立援助ホーム、児童自立支援施設、養育家庭を退所後 1 年から 10 年が経過した者（3,920 人）のうち、施設などが連絡先を把握している者（1,778 人、45.4%）に対してアンケートを実施、回答 673 人（37.9%）。

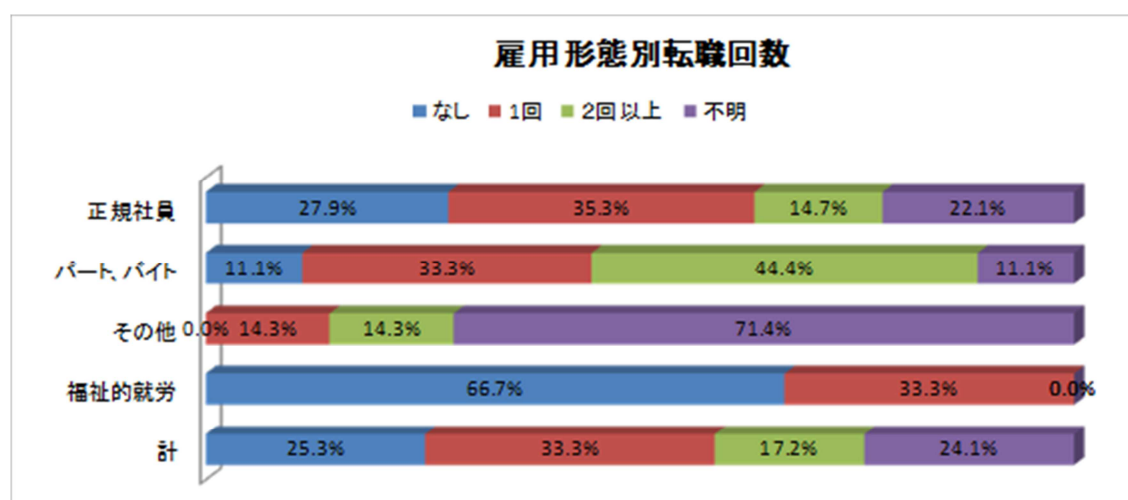
(9) 転職の状況

全体では、卒園後「転職なし」が 22 人(25.3%)、「転職 1 回」が 29 人(33.3%)だが、2 回以上の転職が 15 人(17.2%)、回数不明が 21 人(24.1%)だった。転職 1 回以上は 50.5%と過半数を超えており、これに不明を加えれば 74.6%と 3 / 4 が転職を経験しているといえよう。

学歴別にみると「転職なし」は特別支援学校卒 50.0%、高校卒 32.1%、高校中退 4.8%の順に多く、中卒は 4 名とも 1 回以上が転職していた。

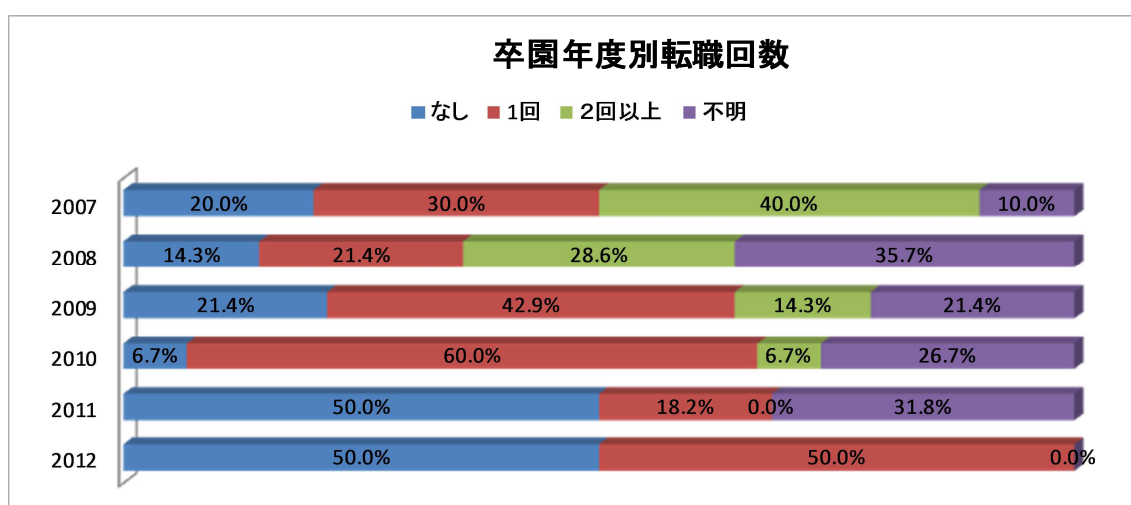


雇用形態別にみると、正規社員では「転職なし」が 27.9%、1 回以上が 14.7%であるのに対し、パート・アルバイトでは「なし」が 11.1%、2 回以上が 44.4%であり、正規社員に比べ定着度が低いことが分かる。

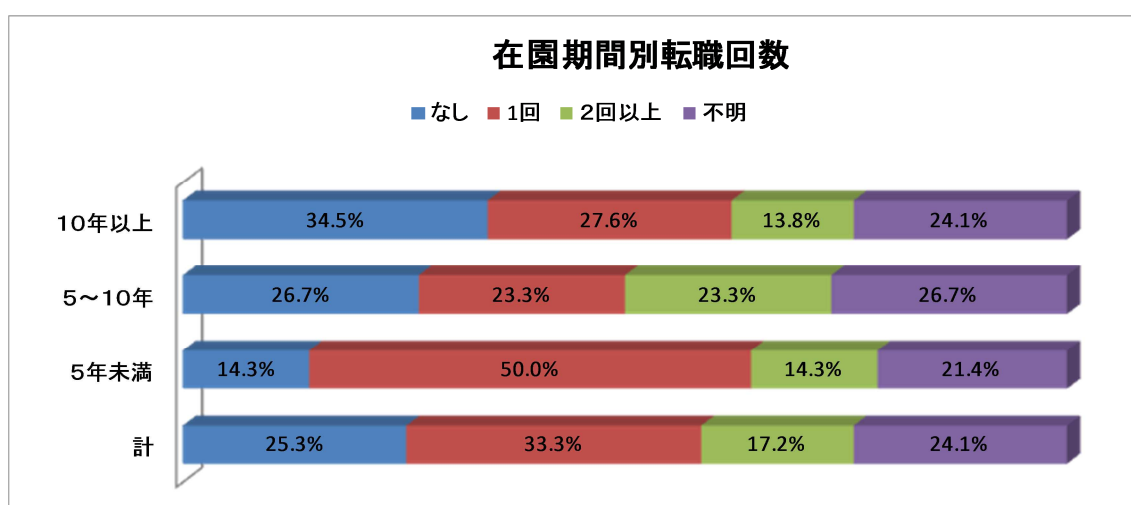


卒園年度別にみると「転職なし」は2007年卒が20.0%、2008年卒が14.3%、2009年卒が21.4%、2010年卒が6.7%、2011年卒が50.0%、2012年卒は2人のうち1人(50.0%)となっており、卒園年月が古い方が単純に「転職なし」が少なくなるというようにはなっていない。

平成13年千児協調査では、「転職無し」は、平成9年度(卒業後4年)では36.4%、10年度(同3年)42.1%、11年度(同2年)53.8%、12年度(同9ヵ月)68.7%となっており、10年前と比べて定着率は概して低下していると考えられる。



在園期間別に比べてみると「転職なし」は、10年以上の在園者では34.5%、5～10年では26.7%、5年未満では14.3%となっており、明らかに在園期間が長い者の方が、定着率が高い。



3 進学者の状況

(1) 進学率

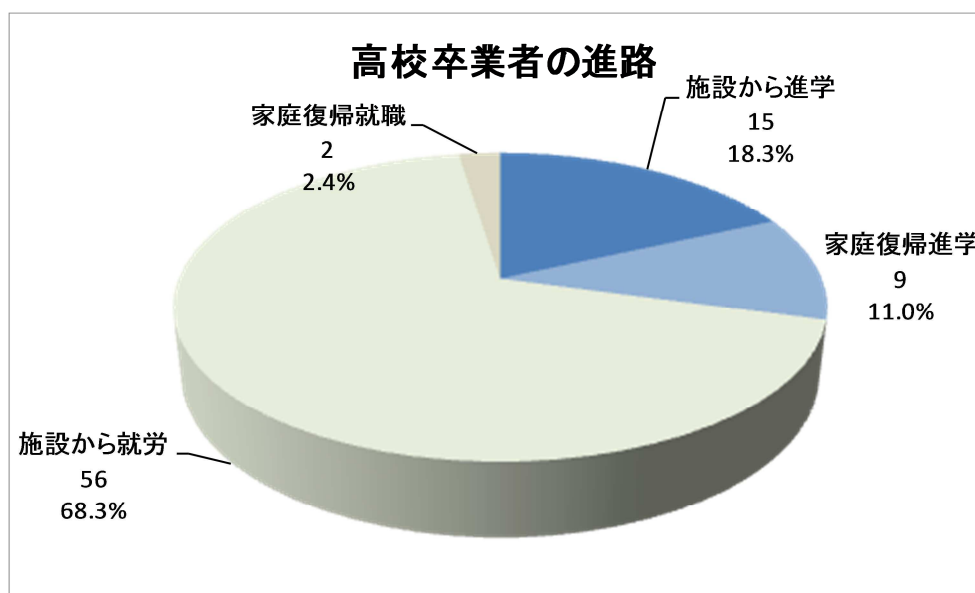
高校を卒業した者 82 名のうち、進学した者は 24 名であり、進学率は 29.3%である。進学者のうち 15 名が施設から進学、9 名が家庭復帰した後に進学している。

厚労省調査によれば、平成 23 年度末に児童養護施設から高等学校等を卒業した児童のうち、平成 25 年 5 月 1 日現在の大学進学率は 11.0%、専修学校等 10.9%、合計 21.9%となっているので、千葉県の進学率は相対的に高いものと考えられる。

また、平成 13 年千児協調査によれば、児童養護施設の高卒者の進学率は平成 9 年度 17.9%、10 年度 12.5%、11 年度 15.6%、12 年度 5.3%、合計 105 人のうち進学者は 15 人、14.3%であり、10 年前に比べると倍増している。

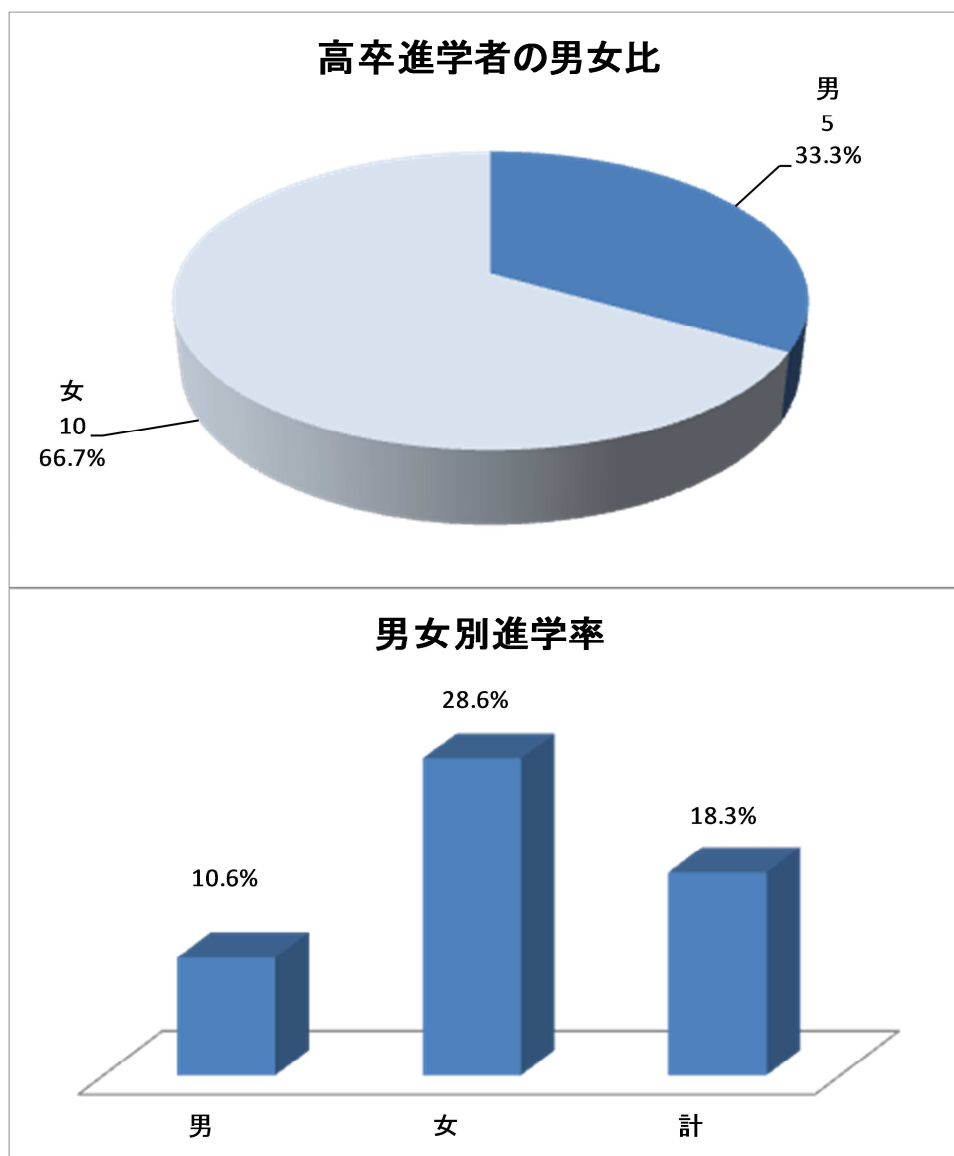
また、全卒園者に対する進学率は 18.6%である。平成 23 年東京都調査によると、退所後 1 年から 10 年までの退所者のうち、4 年生大学、短大、専門学校の卒業者は 15.1%（在学中は母数から除く）であり、厳密な比較は困難であるが、近年の千葉県の調査対象養護施設の進学率は過去 10 年の東京都の進学率水準とほぼ同等となったと考えられる。

以下では、高卒後、施設から進学した者 15 名の状況を述べる。



(2) 男女比

高卒後、施設から進学した者のうち、男子が5名、女子が10名(66.7%)となっており、女子が全体の2/3を占めている。母数に対する進学率は男10.6%、女28.6%となっており、女子の進学率が高いことがわかる。

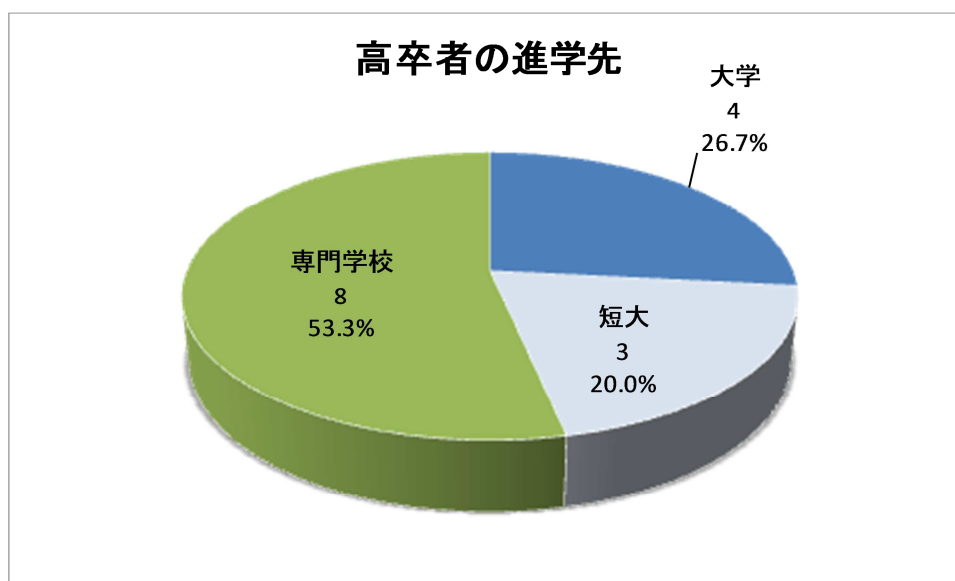


(3) 進学先

進学先は、4年制大学4名（26.7%）、短大3名（20%）、専門学校8名（53.3%）、となっている。

専門学校の分野は、医療、福祉、会計、自動車、技術など多岐にわたっており、専門技術を身につけようとする志向が伺われるが、アニメ関連が2名いるなど、夢にチャレンジしている者もいる。

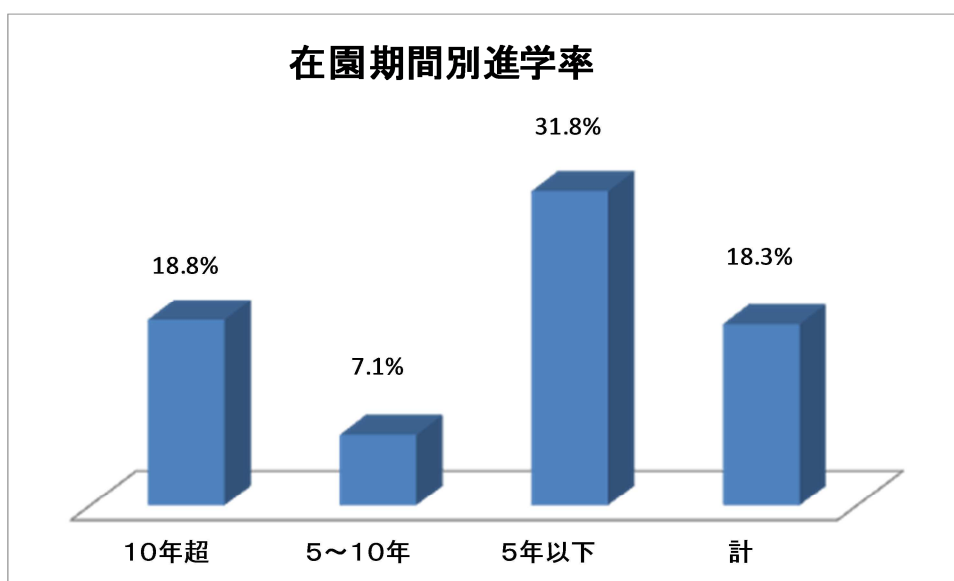
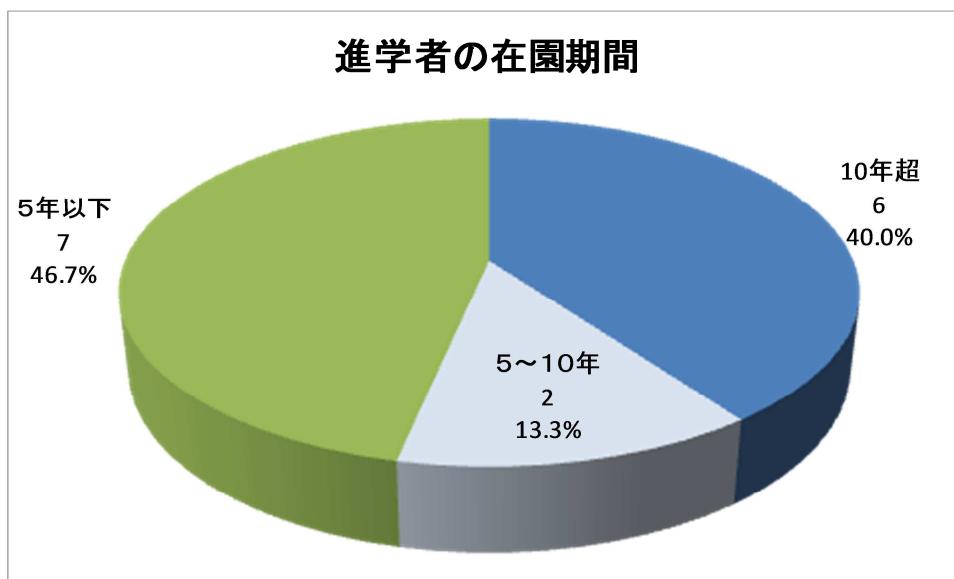
また、短大では保育資格などを取得した上で施設職員になりたいとする者もいる。



(5) 在園期間

高卒後の進学者のうち、在園期間が10年を超える者6名(40.0%)、5～10年の者2名(13.3%)、5年以下が7名(46.7%)となっている。

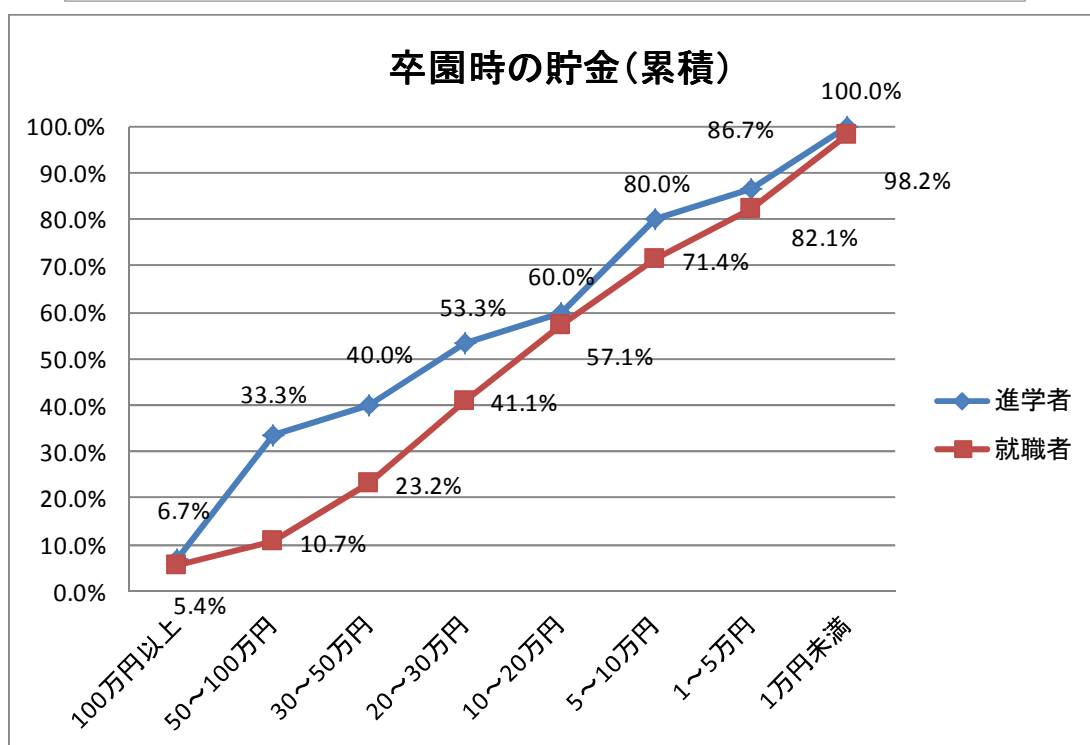
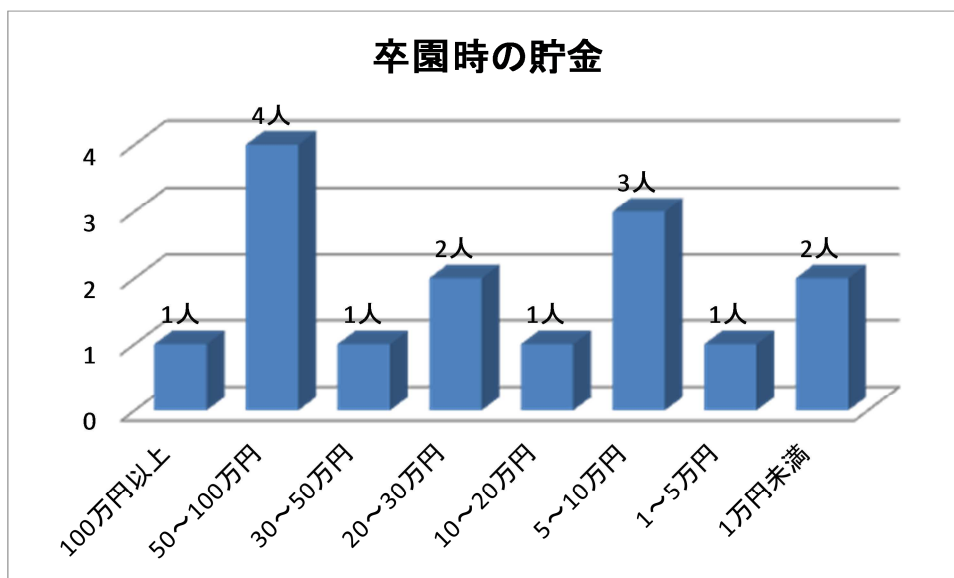
在園期間別の進学率を調べてみると、10年超は32人中6人(18.8%)、5～10年は28人中2人(7.1%)、5年以下は22人中7人(31.8%)となっており、在園期間が5年以下の者で進学率が高くなっている。特に4年制大学進学者うち3名は、在園期間5年以下であり、在園期間と進学意欲や学力に関連があることが想像される。



(6) 卒園時の貯金

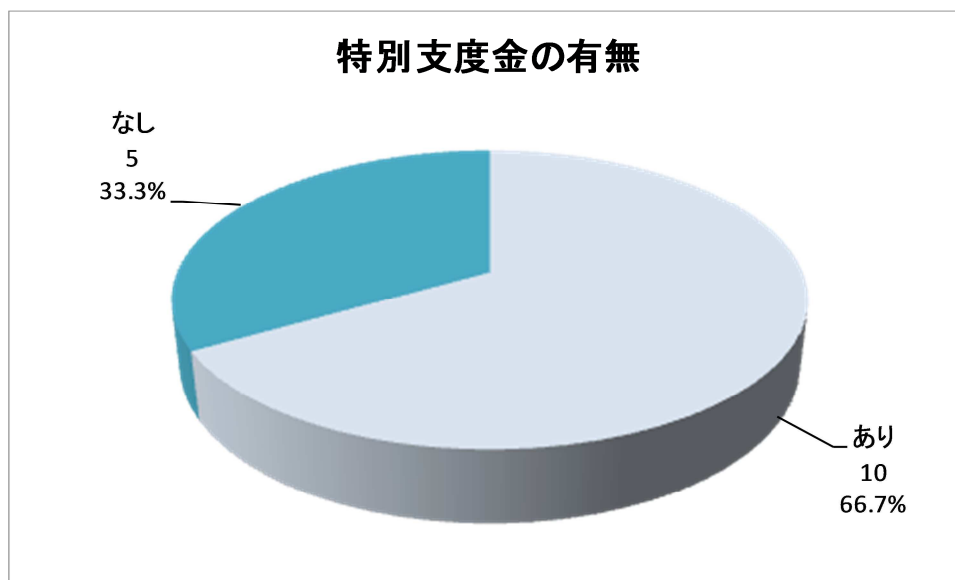
卒園時の貯金は、就職者よりも高く、100万円以上1名(6.7%)、50万円以上5人(33.3%)となっているが、しかし、30万円以下の者が9名(66.7%)と2/3を占め、進学後の生活設計上問題を抱えていると考えられる。

ただ、途中退学した者は現在のところ1名にとどまっており、勉学を続ける意欲は高いものと考えられる。



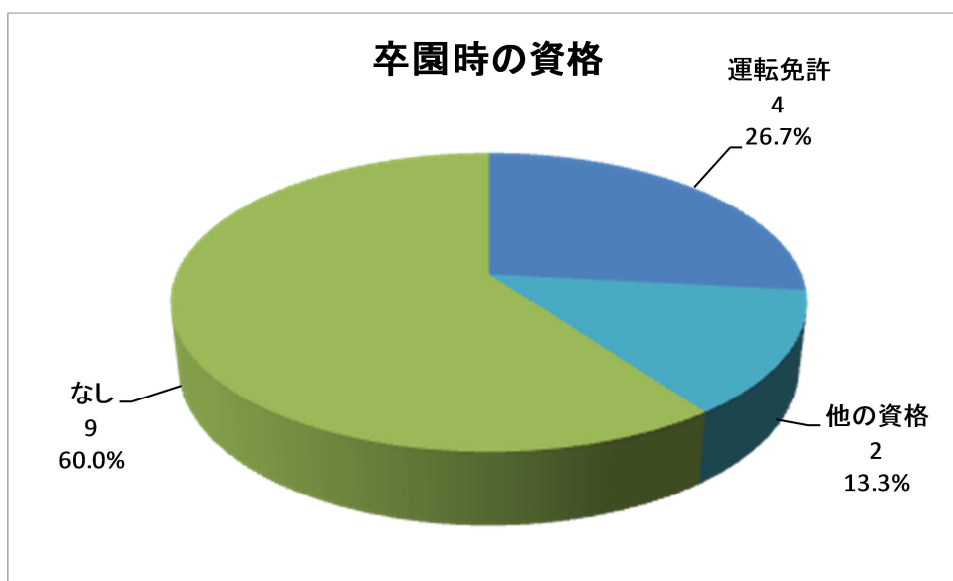
(7) 卒園時の特別支度金

卒園時の特別支度金は受け取った者 10 名 (66.7%)、受け取っていないもの 5 名 (33.3%) となっている。



(8) 卒園時の資格取得状況

卒園時の資格取得状況については、運転免許が 4 名 (26.7%)、他の資格 2 名 (13.3%) となっている。



(9) 卒業後の居所

卒業後の居所について、アパートが 8 名 (53.3%)、シェアルームが 1 名 (6.7%) となっており、2 / 3 の者が家賃を負担して自立的生活を送っている。残り 6 人のうち、遠隔地などによる不明が 3 名、その他 2 名 (祖母宅等)、住み込み (新聞配達) 1 名となっている。

